

# 保護者のための社会性と情動の学習 (SEL-8P) プログラムの試案構成 — 学校と家庭の連携をめざして —<sup>1</sup>

A pilot curriculum of Social and Emotional Learning  
of 8 Abilities for Parenting (SEL-8P) program:  
Promoting partnership between schools and parents

小 泉 令 三                      山 田 洋 平                      藤 田 尋 子

Reizo KOIZUMI

Yohei YAMADA

Hiroko FUJITA

(教職実践講座)

(島根県立大学短期大学部)

(九州産業大学)

(平成29年10月2日受理)

家庭との連携を進めるために、幼稚園、小学校、中学校で実施する保護者との面談や懇談に際し、学級担任等が実施できる家庭教育支援のプログラム「保護者のための社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Parenting: SEL-8P) の構成案を試案として提案した。構成にあたっては、①子ども対象の学習プログラム (SEL-8S, SEL-8N) の学習内容 (学校と家庭が連携するための同時期実施を想定)、②ホームページ等で公開されている家庭教育支援のための保護者向け学習プログラム、そして③幼稚園・小中学校等教員対象に実施した調査結果の3つを勘案した。本研究では、幼稚園・小学校・中学校で合計76のユニットを提案した。また、実施効果を確認するための指標となる尺度の検討を行った。

キーワード：社会性と情動の学習、家庭教育支援、保護者、幼稚園、小中学校

## はじめに

学校や幼稚園での教育を真に効果的なものとするには、保護者との連携が重要な意味をもつ。まず、子どもの生活の衣食住の基本的な部分は家庭で提供されており、これなしでは、子どもの成長はありえない。そして、学校で行われるさまざまな教育活動は、保護者の理解と協力を得てこそより効果的なものとなる。

学校と保護者の連携を促進するために、具体的には、保護者対象の集会や通信、そしてホームページ等で教育方針や取組を説明したり、あるいは教育成果等を紹介したりしている。学校行事や

授業参観の際には、保護者に学校での子どもの学習状況やその成果を見せて、家庭での取り組みの参考にしてもらっている。さらに最近では、子どもの安全確保のために、不審者情報や災害などの緊急時の連絡事項を、電子メール等で一斉配信することもある。これらの種々の連携方法の中でも、特に重要なのは保護者との対面での個人面談やあるいは学級懇談の機会であろう。本研究では、その際に利用できる学習プログラムを提案する。

## 1. 本研究の目的と構成

本研究の目的は、幼稚園、小学校、中学校での面談や懇談のうちに、学級担任等が保護者を対象に実施できる家庭教育支援の学習プログラム「保護者のための社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Parenting:

<sup>1</sup> 本研究は、平成29年度福岡教育大学研究推進支援プロジェクトによる助成を受けたものである。

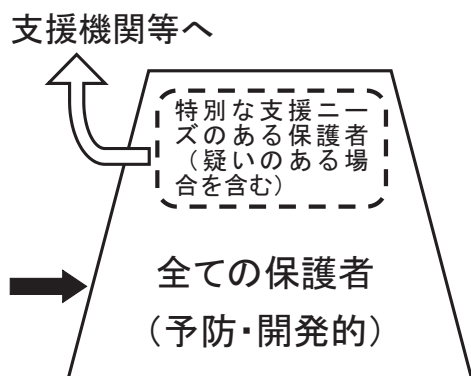


図1 本研究で対象とする保護者（黒矢印）

SEL-8P) プログラムの構成案を試案として提案することである(注: SEL-8P プログラムは、以下“プログラム”を省略してSEL-8Pと表記する)。なお、本研究で対象とするのは全ての保護者であるが、その中で特別な支援ニーズがあったりあるいはその疑いのある保護者の場合は、適切な支援機関等に紹介する(図1)。

本研究の構成は、この後、家庭教育力の定義および保護者が家庭教育で必要になるであろうと考えられる社会性と情動の能力(social and emotional competence for parenting)を提示する(2節)。その後、わが国における既存の家庭教育支援のための保護者向け学習プログラムについて、概要と課題を説明する(3節)。それに続いて、実際に学校教育や幼稚園教育の場で、保護者の家庭教育支援につながっていると考えられる具体的事項を、教育実践に携わっている教員を対象に、質問紙法および面接法により調査した結果を報告する(4節)。そして、これらの事項をもとに具体的なプログラム内容案を提案する(5節)。ここでは、2節で説明した社会性と情動の能力の構成に沿ったプログラム案を作成するが、その際3節で示した既存のプログラムの課題の解決につながるように、4節の実際の教育実践の場での具体的支援の成功例を参考に、教師が実施できるものを目指す。最後に、幼児と小中学生をもつ保護者の家庭教育力の測定に関して、現在開発されている測定尺度について文献レビューを行う。これは、本研究で提案するプログラム構成をもとに、今後実際にプログラムを作成して実践した場合に、その実施効果を測定するための測定尺度を検討する際の資料とするためである。

なお、SEL-8Pは、子どもに対しては「幼児のための社会性と情動の学習」(Social and

Emotional Learning of 8 Abilities at Nursery School: SEL-8N) プログラム(山田・小泉, 2014)や、小中学生用の「学校で8つの社会的能力を育てるための社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning of 8 Abilities at School: SEL-8S) プログラム(小泉, 2011)を実践していることが望ましいが、そうでない場合にも保護者を対象に実施できるようにする。

## 2. 家庭教育力と、社会性と情動の学習

### 家庭教育力とは

初めに、本プログラムにおける家庭教育力の定義を検討する。文部科学省(2005)によると、家庭教育とは「子どもが基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を果たすもの」であり、家庭教育力とはこうした家庭教育に必要な力の総称と言える。また、広島県教育委員会(2002)は、家庭がもつ教育力には、「親などの家族が子どもに対して一定の目的をもって行う意図的な教育力」と「子どもを取り巻く人間関係や自然・社会環境が持つ教育力」の2つの側面があるとしている。前者は「しつけ等言葉や態度によって子どもの生活を導くことや学校でわからないところを教えたりすること」など家庭教育における直接的な技能やスキルが含まれる。一方、後者には、「親の労働・行動や態度に接し、家事を手伝ったりする中で、結果として規範意識や共同体意識、自立意識などが自然に子どもに身につくこと」など家庭教育に対する意識や態度が含まれている。

本プログラムは、主に技能やスキルの向上がねらいになると考える。そのため、本プログラムにおける家庭教育力の定義を「子どもが基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を果たす技能およびスキル」とする。

### SEL-8Pにおける社会的能力

家庭教育力を高めるために、本研究では社会性と情動の学習(social and emotional learning: 以下、SEL)からアプローチする。SELは、アメリカのCASEL(Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning)という民間団体によると「子どもや大人が、情動(感情)の理解と管理、積極的な目標設定と達成、他者への思い

やりをもちそれを示すこと、好ましい関係作りと維持、そして責任ある意思決定について、これらができるようになるための知識、態度、スキルを身につけて効果的に利用できる過程」を含んでいると説明されている (Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning, 2012)。わが国ではより簡潔に、「自己の捉え方と他者との関わり方を基礎とした、社会性 (対人関係) に関するスキル、態度、価値観を育てる学習」といった説明もされている (小泉, 2011)。

SEL のための学習プログラムが SEL プログラムであり、多数の学習プログラムの総称である。そのプログラム構成は大きく分けて2種類あり、①学習セッションの内容や実施回数・順序などが明確に定められているものと、②学習内容はパーツとして提供されているだけで、学習セッションの実施回数や順序などを指導者が設定するものである (Koizumi, 2017)。わが国で実践されている SEL プログラムは後者のものがほとんどであり、本研究で提案する SEL-8P も後者に属する。

表1は、SEL-8P で保護者が家庭教育において必要となる社会的能力の構成を示したものである。ここで社会的能力とは、「適切な自己・他者・状況認知をもとに、自己の情動と行動をコントロールし、周囲の人々や集団と良好な関係や関わりをもつ力」(小泉, 2016) を意味する。表1の8つの社会的能力は大きく基礎的な社会的能力5つと応用的な社会的能力3つに分けられる。この8つの能力構成は、CASELによる能力構成 (Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning, 2012) と Elias et al. (1997) によるスキル区分に基づくものである (参照: 小泉, 2011)。この能力構成は、子ども対象だけでなく大人にも適用できると判断して、本研究で採用した。表1には、比較参照のために、幼児用の SEL-8N (山田・小泉, 2014) 及び小中学生用の SEL-8S (小泉, 2011) の能力構成も示してある。

### 3. 家庭教育支援のための保護者向け学習プログラム

#### ホームページに掲載された学習プログラム

##### (1) 家庭教育支援のための保護者向け学習プログラム

これは、文部科学省が行っている家庭教育支援事業の一環として自治体が作成した学習プログラムのことであり、子育てに関するさまざまなテーマについて、参加者同士で学び合いながら家庭教

育の充実をはかることを目的としている。これらの学習プログラムは、文部科学省が運営しているホームページ「子どもたちの未来をはぐくむ家庭教育」内にある「家庭教育に関する学習プログラム一覧」(<http://katei.mext.go.jp/contents4/pdf/gakushu-program07.pdf>) で参照することができる。

文部科学省 (2017) は、「家庭はすべての教育の出発点であり、家庭に教育の基盤をしっかりと築くことがあらゆる教育の基盤として重要である」とし、すべての親が安心して子育てや家庭教育を行うことができるよう家庭教育支援事業に取り組んでいる。

##### (2) 学習プログラムと家庭教育支援チーム

家庭教育支援の中で重要な役割を担っているのが、家庭と地域・学校をつなぐ「家庭教育支援チーム」である。家庭教育支援チームとは、身近な地域で子育てや家庭教育の相談にのったり、親子で参加するさまざまな取り組みや講座などの学習機会、地域の情報などを提供しているチームのことである (文部科学省, 2011)。主な活動内容は、①広報誌やホームページ等での情報提供、②保護者向け子育て講座や親子参加行事などの学習機会の提供、③家庭訪問による相談対応と情報提供の以上3つである。家庭教育支援チームの意義について文部科学省 (2011) は、「その活動が地域に根ざした身近な人材による日常的な支援を基本とすることによって、専門的支援を必要とする家庭から、現時点ではそのような必要性がない家庭まで、広くユニバーサルに切れ目のない支援を行えることにある」としており、その「日常的な支援」の中に保護者向け学習プログラムの実施が含まれている。

#### 学習プログラムの課題

家庭教育支援のための保護者向け学習プログラムの課題について、①より多くの保護者への提供、②学習プログラムの効果検証、③学習プログラムの手引きの3つについて述べる。

##### (1) より多くの保護者への提供

現在ホームページに掲載されている学習プログラムは、35都道府県6市の自治体によって作成されたものである (2017年7月時点)。日本全国47都道府県から考えると、すべての自治体が学習プログラムの作成に至っているわけではないことが窺える。

また先にも述べたように、学習プログラムの実施は、主に地域の家庭教育支援チームによって行なわれており、その実施場所の1つとして学校も



表1 SEL-8Pの社会的能力の説明およびSEL-8SとSEL-8Nとの比較

	能力	SEL-8Pの内容 ＜対象：保護者＞	SEL-8Sの内容（小泉，2011） ＜対象：小中学生＞	SEL-8Nの内容（山田・小泉，2014）＜対象：幼児＞
基礎的な社会的能力	自己への気づき	自分の感情に気づき、また自己の養育力について現実的で根拠のある評価をする力	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力
	他者への気づき	子どもや家族等の感情を理解し、彼らの立場に立つことができるとともに、多様な感じ方や考え方があることを認め、良好な関係をもつことができる力	他者の感情を理解し、他者の立場に立つことができるとともに、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力	他者の立場について考え、他者の感情を理解しようとするとともに、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力
	自己のコントロール	物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力	物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力	物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力
	対人関係	子どもや家族等との関係において情動を効果的に処理し、協力的で相互に援助し合えるような健全で価値のある関係を築き、維持する力	周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き、維持する力。ただし、悪い誘いは断り、意見が衝突しても解決策を探ることができるようにする力	周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き、維持する力
	責任ある意思決定	子どもや家族等を尊重し、関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行うとともに、自己の決定については責任をもつ力	関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う。その際に、他者を尊重し、自己の決定については責任をもつ力	関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う。その際に、他者を尊重し、自己の決定については責任をもつ力
応用的な社会的能力	生活上の問題防止	子どもや自分、そして家族等の心身の健康を維持・管理し、病気やけがを予防するとともに、社会規範を守った生活が送れるようにする力	アルコール・タバコ・薬物乱用防止、病気とけがの予防、性教育の成果を含めた健全な家庭生活、身体活動プログラムを取り入れた運動の習慣化、暴力やけんかの回避、精神衛生の促進などに必要なスキル	誘拐などの被害防止、病気とけがの予防、健全な家庭生活、身体活動プログラムを取り入れた運動の習慣化、暴力やけんかの回避、精神衛生の促進などに必要なスキル
	人生の重要事態に 대처する能力	子どもや家族等の環境変化（進級、進学、転校、転職、転居等）に対処し、家庭生活の課題を解決したり困難を克服する力	中学校・高校進学への対処、緊張緩和や葛藤解消の方法、支援を求め方（サポート源の知識、アクセス方法）、家族内の大きな問題（例：両親の離婚や別居）や死別への対処などに関する能力	小学校進学への対処、緊張緩和や葛藤解消の方法、支援を求め方（サポート源の知識、アクセス方法）、家族内の大きな問題（例：両親の離婚や別居）や死別への対処などに関するスキル
	積極的な奉仕活動	身近な他者への援助に関するボランティア精神の保持と奉仕活動実践の力	ボランティア精神の保持と育成、ボランティア活動（学級内、異学年間、地域社会での活動）への意欲と実践力	ボランティア精神の保持と育成、ボランティア活動（保育所・幼稚園内、家庭内での活動）への意欲と実践力

想定されている。しかし、家庭教育支援チームは、2017年7月時点で全国で173の登録であり、同時期の日本全国の市町村数1,718（総務省）から考えると、決して十分な数とは言えない。

すべての学齢期の子どもが通学する学校は、子どもに対する家庭教育支援を展開する上で重要な機関である（文部科学省、2017）。したがって、保護者向け学習プログラムの実施場所の一つとして学校が想定されているように、学校は多くの親へのアプローチを試みるのに適した場所である。しかし、先の学習プログラム数や家庭教育支援チーム数から考えると、各自治体作成の学習プログラムを地域の家庭教育支援チームが実施するだけでは、家庭教育支援が十分に行き渡っているとは言えないのではないだろうか。そこで、家庭教育支援を行う際に共通して利用できる保護者向け学習プログラムを開発し、それを学校で教師が実施することで、より多くの保護者に対する支援へとつながると考えられる。

#### (2) 学習プログラムの効果検証

自治体が作成している学習プログラムについて効果が検証されているものは見当たらない（藤田・小泉、2016）。家庭教育支援チームの在り方に関する検討委員会（2014）（注：文部科学省設置）は、「保護者の学習プログラムについては、諸外国、各自治体、民間団体等で様々なプログラムが開発され、活用されている。こうした学習プログラムについて客観的な効果が評価できるものについては国で紹介するなどの工夫が必要ではないか」と述べているように、今後、学校で学習プログラムを実施した結果や科学的根拠のある統計データとして蓄積していくことが期待されている。

#### (3) 学習プログラムの手引き

今後さらに家庭教育支援を充実させていくためには、学校と家庭の連携を進めることが必要不可欠である。学習プログラムをより効果的に実施するためには、実施者はファシリテーターとしての訓練を受けることと経験を積むことが望ましい。多くの学習プログラムは、主な資料として手引きが掲載されており、また、自治体によっては、学習プログラムのファシリテーターを養成する講座を実施しているところもある（藤田・小泉、2016）。しかし、多忙を極めている教師にとって、それは容易ではない。よって、長期間の訓練や経験を多く積まなくても学習プログラムが実施できるよう、より学校に適した手引きを作成する必要がある。

これら3つの課題について、本研究の目的である家庭教育支援の学習プログラム（SEL-8P）を新たに開発・実施し、その効果を検証すること、さらに教員がおもな実施者となるための研修・実施マニュアルを準備することで、①学校で教師が実施することでより学校と家庭の連携が進み、②より多くの保護者への支援につながることを期待できる。

## 4. 幼稚園・小中学校教員対象の調査

### 調査の目的

前節で説明した家庭教育支援のための保護者向け学習プログラムの内容は幅広いが、学校と家庭（保護者）の連携を図るという観点からは、内容が多岐にわたり、かつ手引き等も十分に整っていないのが現状である。そこで、学校の教育実践の場で実際に保護者の家庭教育支援につながったと考えられる事項を集め、学校で実施できる家庭教育支援のための保護者向け学習プログラムの内容構成の参考にする。

### 方法

#### (1) 調査対象者

小中学校教員については、A大学教職大学院に在籍する研修中の教員7名およびA大学教員免許状更新講習の受講者で任意の回答に同意した23名が質問紙調査の対象者であった（小学校16名、中学校11名、小中一貫校2名、特別支援学校1名）。また、公立B小学校の校長および教頭が、質問紙調査と同様の質問項目で面接調査に参加した。教職経験年数は1～35年で、平均は18.8年であった。

幼稚園教員については、私立C幼稚園に勤務する12名の教員が面接調査に参加した。教職経験年数は1～9年で、平均は4.2年であった。

#### (2) 調査時期

2017年7～8月に実施した。

#### (3) 調査内容

質問紙調査では、学校と保護者の連携の重要性を述べた後、次のような説明文を記載した。「保護者にアドバイスをしたり情報を提供したりして、家庭での子育て支援に役に立った、感謝された、効果が見られたということがあれば、ご記入ください。」これに続いて、8つの社会的能力（表1）ごとに簡単な例をあげ、それらを参考に経験した事項を自由に回答するように依頼した。

幼稚園教員への面接調査では、質問紙調査と同一の内容、すなわち重要性の説明、質問文、簡単

な例を記載した文書を見せながら説明し、経験した事項を自由に口頭で回答するよう依頼した。

#### (4) 調査手続き

小中学校教員への質問紙調査は、研修あるいは講習の休憩時間等に自由に回答するよう依頼した。回答は無記名とし、回答への協力は任意であり、また回答の有無や内容は成績や評価に無関係であることを口頭で説明した。回収は個別には行わず、グループで一括しての提出か、あるいは休憩時間に無人の回答箱へ個別に提出する方法を用いた。管理職の面接も、回答は任意であることと氏名は記録に残さないことを説明し、了解を得た。

幼稚園教員への面接調査は、幼稚園長の許可のもと第1・2著者が行った。聞き取りに際し、回答者の氏名や所属、回答内容がそのまま公表されることはないことを説明した上で、ICレコーダーでの録音の許可を得た。面接は一人当たり30～40分で、C幼稚園の2つの教室で行なった。

#### 結果

##### (1) 小中学校教員への調査結果

回答（記述、口頭での回答）を内容のまとまりによって区切り、それを表1の8つの社会的能力の区分にしたがって分類してまとめたものが表2である。記述数は合計146であり、それらを複数の記述があった事項と1回だけ記述のあった事項に分けた。全体的に、8つの社会的能力の間では、極端な記述の偏りは見られなかった。

##### (2) 幼稚園教員への調査結果

録音した面接内容を文字化した後、内容のまとまりによって区切り（小中学校等教員への調査と同様に、便宜的に“記述”とする）、それを表1の8つの社会的能力の区分にしたがって分類してまとめたものが表3である。記述数は合計94であり、それらを複数の記述があった事項と1回だけ記述のあった事項に分けた。自己への気づき、他者への気づき、生活上の問題防止のスキルが多いのに対し、積極的、貢献的な奉仕活動は少数であった。

### 5. SEL-8Pの内容構成案

保護者の家庭教育支援のためのSEL-8Pのユニット配置を表4に提案する。表の左端の列は、子どもの年齢区分を示す。最上端の行は、学習内容の区分を表す学習領域を示している。8つの学習領域は、小中学生用のSEL-8Sプログラムや幼児用のSEL-8Nプログラムとほぼ同一である。こ

れは、子どもを対象にこれらの学習プログラムを実施し、保護者に対してはSEL-8Pを実施する場合に、学校と家庭の両方での関わり方を関連づけることが可能になり、教育効果を高めることができるからである。なお、本論の1節「本研究の目的と構成」の最終部分でも述べたとおり、SEL-8P自体は単独でも実施できるように構成されている。表5～9には各ユニットのねらいを示した。幼稚園が21、小学校低学年が13、中学年が12、高学年が12、中学校が18の合計76個のユニットとなった。

以上のユニット構成（表4）および各ユニットのねらい（表5～9）の作成にあたっては、子ども対象のSEL-8SおよびSEL-8Nの学習内容、家庭教育支援のための保護者向け学習プログラム（3節）、そして幼稚園・小中学校等教員対象の調査結果（4節）の3つを勘案して、構成・設定した。例えば、幼稚園の保護者対象の学習ユニット（表5）の「A1 あいさつ」は、SEL-8Nの同名ユニット（A1）と、幼稚園教員の面接結果（表3）の「生活上の問題防止のスキル」の「基本的生活習慣の発達を促す助言」を関連づけたものである。同じく表5の「A(a) 家庭のルールと育児方針」は、幼稚園教員の面接結果（表3）の「自己への気づき」の「保護者の育児の受容と賞賛」と、家庭教育支援のための保護者向け学習プログラム（3節）（藤田・小泉, 2016）によるものである。

これらのユニットは、子どもや保護者の実態、および子どもがSELを実施しているのであればその学習状況等に合わせて適宜選択し、実施することを想定している。先に2節で述べたSELプログラムの2分類でいうと、学習内容はパーツとして提供され学習セッションの実施回数や順序などは、学校等側が設定するタイプになる。

### 6. 家庭教育力の測定について

本研究で開発するSEL-8Pは、家庭教育力の向上をねらいとしたプログラムであるが、その有効性を検討するためには、実践効果の測定を行う必要がある。3節で述べた通り、効果の測定が従来の学習プログラムの課題の一つである。そこで本プログラムの効果検証のために、家庭教育における直接的な技能やスキルを測定できる指標の検討を行う。

#### 家庭教育力を測定する尺度検索

家庭教育力に関連する尺度および親トレーニン



表2 小中学校等教員の調査結果の整理 (注1)

社会的能力		全記述数	複数の記述があった事項			単数の記述 (非該当を除く) (注2)	
基本的な社会的能力	自己への気づき	(22)	・子育てのがんばりの賞賛 (12) [小 B(a)~B(c)] [中 B2]	・子ども受容の賞賛(4) [小 B(a)~B(c)] [中 B2]	・子ども受容の助言(2) [小 B(a)~B(c)] [中 B1]	・保護者本人の自己受容の助言 ・子ども理解の賞賛	・力を抜くことの助言
	他者への気づき	(16)	・子どもの言動への注目の助言(4) [小 B(a)~B(c)] [中 B1]	・子どもの好ましい言動や性格への注目の助言(4) [小 B(a)~B(c)] [中 C1]		・自主性育成の助言 ・安全・安心への注目の助言 ・専門機関の紹介 ・体験の共有の助言	・障害理解の助言 ・成長への気づきの助言 ・他児の実態への注目の助言
	自己のコントロール	(23)	・保護者の怒りのコントロールの助言(10) [小 D3,E2,E4] [中 C4]	・共感や見方を変える助言 (2) [小 B(a)~B(c)] [中 B(a)]	・否定的な言動や脅しの抑制の助言(2) [小 C(a)~C(c)] [中 C4]	・他者への相談の助言 ・スケジュール管理の指導での連携 ・家庭と学校の連携の助言	・問題行動対応への助言 ・待つことの助言 ・比較しないことの助言 ・一貫した指導の助言
	対人関係	(19)	・行動や長所の賞賛の助言 (6) [小 C3] [中 C1]	・観察や傾聴の助言(3) [小 B(a)~B(c)] [中 B1]	・共感の言動や感謝の言葉の助言(2) [小 C(a)~C(c)] [中 B1]	・モデルを示すことへの助言 ・比較や悪口の抑制の助言	・声のかけ方の助言 ・自力解決への促し
	責任ある意思決定	(16)	・家庭内のルール決定の助言 (7) [小 F9] [中 A2]	・進路に関する決定の助言 (5) [小 G6] [中 G2]	・特別支援教育での決定の助言(2)	・決定に際し子どもを信じることの助言	・問題行動予防のための決定の助言
応用的な社会的能力	生活上の問題防止のスキル	(21)	・スマホ、ゲーム、SNSに関する指導の助言(9) [小 F9] [中 D3]	・物品・金銭に関する指導の助言(4) [小 F(a),F(b),G6] [中 F1]	・問題行動 (万引き、虚言など) の指導についての助言 (3) [小 F6] [中 F1]	・時間管理に関する指導の助言 ・家庭でのルールに関する指導の助言	・危険防止の指導の助言 ・子どもの実態把握の必要性についての助言
	人生の重要事態に対する能力	(17)	・転校に関する助言(7) [小 G(a)~G(c)] [中 G(a)]	・進路 (中学・高校受験等) に関する助言 (5) [小 G6] [中 G2]	・保護者の離婚に際しての助言(2)	・通常学級への転籍に関する指導	・海外の学校への転校に関する指導
	積極的、貢献的な奉仕活動	(12)	・家での手伝いの奨励(6) [小 H2,H4] [中 H1]	・保護者がモデルとなっていることの指摘 (3) [小 H6] [中 H2]		・家庭でのしつけの賞賛	・奉仕活動での学校と保護者との連携の助言

(注1) 管理職の口頭での回答を含む。

(注2) 「非該当」とは、保護者に関する記述内容ではないと判断されたもの

(注) ( )内の数字は記述数, [ ]は複数の記述があったものの中で、その記述を反映させた表4, 6~9の学習ユニットを表す。

表3 幼稚園教員の面接結果の整理 (注1) (注2)

社会的能力		全記述数	複数の記述があった事項			単数の記述	
基本的な社会的能力	自己への気付き	(17)	・保護者の育児の受容と賞賛(8) [幼 B(a)]	・育児不安への助言(4) [幼 A(b),E3]	・子ども受容の助言(4) [幼 B2,B4]	・子ども理解の賞賛	
	他者への気付き	(18)	・子どもの好ましい言動への注目の助言(10) [幼 B4]	・子どもの言動への注目の助言(4) [幼 B1]	・専門機関の紹介(3) [幼 F(b)]	・共感や見方を変える助言	
	自己のコントロール	(11)	・力を抜くことへの助言(5) [幼 E2]	・待つことの助言(5) [幼 D2]		・否定的な言動の抑制の助言	
	対人関係	(13)	・子どもの接し方への助言(8) [幼 B2,C4]	・声のかけ方の助言(3) [幼 D3]	・賞賛への助言(2) [幼 C(a)]		
	責任ある意思決定	(4)	・育児方針の決定の助言(3) [幼 A(a)]			・家庭内のルール決定の助言	
応用的な社会的能力	生活上の問題防止のスキル	(20)	・基本的な生活習慣の発達を促す助言(11) [幼 A1,A4,F(a)]	・気になる行動の対応への助言(9) [幼 A(b)]			
	人生の重要事態に対する能力	(9)	・進路(小学校)に関する助言(4) [幼 G2]	・進路(特別支援学校)に関する助言(3) [幼 F(b),G2]		・保護者の離婚に際しての助言	・転園に関する助言
	積極的、貢献的な奉仕活動	(2)	・家での手伝いの奨励(2) [幼 H1]				

(注1) 「記述」とは、面接内容の中で内容のまとまりのある単位を表す。

(注2) ( )内の数字は記述数, [ ]は複数の記述があった事項の中でその記述を反映させた表4~5の学習ユニットを表す。

グなどで使用している尺度について、CiNiiによる文献検索を行った。その中から特に技能やスキルに関する尺度を検討した結果、「肯定的・否定的養育行動尺度」(伊藤ら, 2014), 「養育スキル尺度」(三鈷, 2008; 立元・佐藤・坂田・岡安・佐藤, 2001), 「家庭の教育力総合スコア」(田中, 2004), 「中学生の母親の養育スキル尺度」(渡邊・平石, 2011)などが検索された。

これらの尺度の中からさらに適切な尺度を抽出するため、3つの基準を設けた。それは、①本プログラムの対象に合わせて、幼児と小中学生の保護者が対象に含まれた尺度であること、②妥当性

と信頼性の検討が十分になされていること、③フィードバックにより、保護者自身の家庭教育力の自己理解が深められるように、下位尺度の記述統計が示されていることの3点であった。この基準をすべて満たす尺度は見られなかったが、最も基準を満たす測定指標として、三鈷(2008)の「養育スキル尺度」と伊藤ら(2014)の「肯定的・否定的養育行動尺度」が挙げられる。

三鈷(2008)の「養育スキル尺度」は、幼児の保護者を対象に作成された9因子45項目からなる尺度である。尺度開発にあたっては、クロンバックの $\alpha$ 係数による内的一貫性、育児不安等



表 4 SEL-8P のユニット配置表

校種	学年	A 基本的な生活習慣	B 自己・他者への気づき、聞く (注2)	C 伝える 伝える	D 関係づくり	E ストレスマネジメント (注2)	F 問題防止	G 環境変化への対処	H ボランティア
幼	ステップ 1 (注1)	A1 あいさつ 「おはよう」	B1 感情理解 「この顔どんな気持ち？」	C(a) 賞賛の伝達	D2 自己制御 「仲良くしよう」	E2 ストレス対処 「深呼吸」	F(a) トイレトレーニング F(b) 身近な危険	G(a) 転校 【個人面接】	H1 家でのお手伝い 「私のお手伝い」
		A(a) 家庭のルールと育児方針 A4 食生活 「残さず食べようお弁当」 A(b) 気になる行動への対応	B4 他者理解 「友だちの好きなところ」 B(a) 子どもの理解と受容	C4 意思伝達 「先生あのね」	D3 対人関係 「一緒に遊ぼうよ！」	E3 自己の感情理解 「不安な気持ち」	F(c) 専門機関との連携	G2 進級 「新しい友だち」	H(a) 地域でのボランティア
	低学年	A4 食生活 「何でも食べよう」 A(a) 社会のマナーやルール A6 生活リズム 「早寝早起き朝ご飯」	B1 自己の感情理解 「怒っているわたし」 B(a) 子どもの理解と受容	C1 感情伝達 「とてもうれしい！」 C(a) 励ましや感謝の伝達	D1 関係開始 「入れて！」 D(a) 子ども同士のトラブル	E1 ストレス認知 「うれしいこと、心配なこと」	F(a) 物品・金銭管理 F(b) 身近な危険	G(a) 転校 【個人面接】	H2 家庭でのボランティア 「わたしにできる仕事」
		A6 生活リズム 「早寝早起き朝ご飯」	B4 他者理解 「しっかり聞こう」 B(b) 子どもの理解と受容	C3 感情伝達 「じょうずだね」 C5 意思伝達 「断る方法いろいろ」 C(b) 励ましや感謝の伝達	D3 自己制御 「こころの信号機」 D4 協力関係 「みんなで力を合わせて」	E2 ストレス対処 「イライラよ、さようなら」	F(b) 物品・金銭管理	G(b) 転校 【個人面接】	H4 家庭でのボランティア 「わたしの役割」
小	高学年	A8 あいさつ 「こんにちは」	B6 他者の感情理解 「相手はどんな気持ち？」 B(c) 子どもの理解と受容	C6 「わたしはしない」は、C5 の内容を使うことができる。 C(c) 励ましや感謝の伝達	D5 問題解決 「トラブルの解決」	E4 ストレス対処 「リラクセスして」	F6 万引き防止 「それはしない！」 F9 携帯電話 「マナーを守ろう」	G6 卒業・進学 「いよいよ中学生」 G(c) 転校 【個人面接】	H6 身の回りや地域でのボランティア 「いろいろあるよ」
		A2 規範遵守 「私たちの生徒規則」 A3 時間管理 「時間を大切に」	B1 他者理解 「“聞く”と“聴く”」 B2 自己理解 「短所を乗り越える」 B(a) 子どもの理解と受容	C1 意思伝達 「分かりやすく伝えよう」 C4 感情伝達 「冷静に伝える」	D2 問題解決 「友達に怒っちゃった！？」 D3 携帯電話 「顔の見えないコミュニケーション」	E1 ストレス認知&対処 「ストレスマネジメント I」 E3 サポート希求 「ストレスマネジメント III」	F1 万引き防止 「ダメ！万引き！」 F3 精神衛生 「ポジティブに考えよう！」	G1 自己理解 「“私”のいいところ」 G2 進路選択 「私の“夢”」 G(a) 転校 【個人面接】	H1 学校でのボランティア 「学校でのミニボラ？」 H2 地域でのボランティア 「地域でのボランティア」

(注) A1, B1 等の表記は、幼児用の SEL-8N プログラム、小学生・中学生用の SEL-8S プログラムの該当する学習ユニットを表す。なお、A(a) のようにカッコ内には文字アルファベットがあるものは、保護者用にのみ SEL-8P で設定したものである。

(注1) 幼稚園の学年は、発達段階に応じてステップ 1, 2 とする。

(注2) 幼稚園児対象の SEL-8N の学習領域名は、B「他者への気づき、聞く」、E「自己への気づき、ストレスマネジメント」である。

表5 幼稚園の保護者対象の学習ユニットのねらい

学習ユニット	ねらい
A1 あいさつ 「おはよう」	・「あいさつのポイント」を知り、そのポイントをおさえて家庭で指導できるようにする。
A(a) 家庭のルールと育児方針	・保護者間で家庭・社会でのルールやマナー、そして育児方針（生活リズム、習い事など）を交流し、今後の家庭教育に生かす。
A4 食生活 「残さず食べようお弁当」	・子どもの好き嫌いを知るとともに、保護者間で食事指導（食事時間、好き嫌い、食事のマナー）に関する知恵やアイデアを共有して、家庭での指導に生かす。
A(b) 気になる行動への対応	・家庭での子どもの気になる行動に関する対応の工夫やその成果を交流し、自分の子育ての良い点や頑張りに気づくとともに、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす。
B1 感情理解 「この顔どんな気持ち？」	・「相手の気持ちを知るヒント」を知り、それらを家庭内で使えるようにする。
B2 聞く 「話を聞く」	・相手の話の内容を理解するための聞き方のポイント（体を向ける、相手の目を見る、最後まで聞く）を知り、家庭での指導に生かせるようにする。
B4 他者理解 「友だちの好きなおところ」	・子どもの長所や好きなおところに気づいている保護者の工夫や考え方とその成果を交流し、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす。
B(a) 子どもの理解と受容	・保護者の育児に関する工夫やその成果を交流し、自分の子育ての良い点や頑張りに気づくとともに、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす。
C(a) 賞賛の伝達	・承認や賞賛の伝え方のポイント（名前、誉め言葉、理由、スキンシップ）を知り、それらを使って家族間で励ましたりほめたりできるようにする。
C4 意思伝達 「先生あのね」	・「伝え方のポイント」（私は、～[意思]～です。）を知り、家庭での指導（叱る）の際に使えるようにする。
D2 自己制御 「仲良くしよう」	・落ち着いて行動することの重要性に気づき、適切な落ち着く方法（深呼吸、数える）を子どもと保護者の両方が使えるようにする。
D3 対人関係 「一緒に遊ぼうよ！」	・「声のかけ方のポイント」を知り、家庭での指導に役立てる。 ・子ども同士のトラブルについて、自分の子どもと他の子どもの双方にどのように関わるのがよいのかを話し合い、今後の育て方に生かす。
E2 ストレス対処 「深呼吸」	・感情を落ち着かせるための深呼吸の方法を身につけ、家庭でも活用できるようにする
E3 自己の感情理解 「不安な気持ち」	・自分が不安な時（イライラした時）の体や表情などの特徴を知り、身体的な違いに気づくようにする。
F(a) トイレットトレーニング	・保護者間でトイレットトレーニングに関する工夫やその成果を交流し、自分の頑張りに気づくとともに、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす。
F(b) 身近な危険	・身近な生活の中に潜む危険に気づき、子どもの安全に関する意識を高めて、危険を避けることができるようにする。
F(c) 専門機関との連携	・育児に関連する専門機関等について情報を得て、実際に利用できるようにする。
G(a) 転園	・[個人面接]転園に際しての具体的な手続きを知り、子どもが不安にならないように家庭で支援する。
G2 進級 「新しい友だち」	・子どもの小学校進学に伴う様々な感情を理解し、家庭で支援できるようにするとともに、小学校生活の特徴や具体的な準備について知る。
H1 家でのお手伝い 「私のお手伝い」	・子どもが家庭で役割が持てるように、お手伝いに関する工夫やその成果を交流し、今後の家庭教育に生かす。
H(a) 地域でのボランティア	・保護者がモデルとなっていることに気づくとともに、子どもと一緒にできる活動があれば、子どもに参加を促す。

(注) A1, B1 等の表記は、幼児用の SEL-8N の該当する学習ユニットを表す。なお、A(a)のようにカッコ内に小文字アルファベットがあるものは、保護者用にもみ SEL-8P で設定したものである。

表6 小学校低学年の保護者対象の学習ユニットのねらい

学習ユニット	ねらい
A4 食生活 「何でも食べよう」	・子どもが立てた好き嫌いをなくす目標を知るとともに、保護者間で食事指導に関する知恵やアイデアを共有して、家庭での指導に生かす。
A(a) 社会のマナーやルール	・子どもにマナーやルールを身につけさせるための具体的な関わり方について交流し、家庭で生かせるようにする。
B1 自己の感情理解 「怒っているわたし」	・子どもが怒っている時の体や表情などの特徴を考え、子どもが感情理解を深められるように家庭での指導に生かす。
B(a) 子どもの理解と受容	・子どもが困難に直面している場面での子どもの言動や気持ちの変化に気づいている保護者の例を聞き、その大切さと対処法に気づく。 ・保護者の互いの工夫やその成果を交流し、自分の子育ての良い点や頑張り気づくとともに、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす。
C1 感情伝達 「とてもうれしい！」	・家庭で「気持ちの伝え方のポイント」を使った感情伝達ができるようにする。
C(a) 励ましや感謝の伝達	・子どもの頑張りや良さに注目し、賞賛したり感謝を伝えることの大切さを知って、家庭で実行できるようにする。
D1 関係開始 「入れて！」	・対人関係開始のポイントを知り、家庭での指導に役立てる。
D(a) 子ども同士のトラブル	・子ども同士のトラブルへの対処法を知り、今後の指導に生かす。
E1 ストレス認知 「うれしいこと、心配なこと」	・気持ちについての言葉での表し方が多様であることを知り、普段の生活場面でも子どもが多様な気持ちを表す言葉を使えるようにする。
F(a) 物品・金銭管理・持ち物や金銭	・持ち物や金銭について、子どもがやってよいことと、やっていけないことを家庭で指導する。
F(b) 身近な危険	・身近にある危険（交通事故や不審者）を理解し、子ども達が自ら回避できるように保護者が導く方法を共有する。
G(a) 転校	・[個人面接]転校に際しての具体的な手続きを知り、子どもが不安にならないように家庭で支援する。
H2 家庭でのボランティア 「わたしにできる仕事」	・子どもが選んだ身の回りの仕事について、一定期間の取組ができるように家庭で指導する。

(注) A4, B1 等の表記は、小学生用の SEL-8S の該当する学習ユニットを表す。なお、A(a)のようにカッコ内に小文字アルファベットがあるものは、保護者用にのみ SEL-8P で設定したものである。

の他尺度との相関係数による基準関連妥当性の検討、さらに三鈷 (2009) では、三鈷 (2008) で開発した尺度について、親子コミュニケーションの行動観察による併存的妥当性の検討が行われている。各因子は、物的報酬、援助的コミュニケーション、注目・関与、不適切行動の無視、誘導的しつけ、きげんとり、感情的叱責、スパニング、身体的攻撃である。

伊藤ら (2014) の「肯定的・否定的養育行動尺度」は、小学1年生から中学3年生の保護者を対象に作成された肯定的養育と否定的養育の2概念と6因子構造 (35項目) の尺度である。尺度開発に当たっては、クロンバックの $\alpha$ 係数による内の一貫性、SDQとの相関係数による構成概念妥当性の検討が行われている。また、既存の尺度

の因子構造やメタ分析の知見に基づき開発されているのが特徴である。各因子は、肯定的養育行動として、肯定的応答性、意思の尊重、関与・見守り、そして否定的養育行動として、非一貫性、厳しい叱責・体罰、過干渉となっている。

#### 検討結果

本プログラムの効果測定に適した尺度を検索した結果、「養育スキル尺度」(三鈷, 2008) および「肯定的・否定的養育行動尺度」(伊藤ら, 2014) が最適な尺度であると考えられた。ともに、信頼性と妥当性の検討が十分になされており、記述統計も記載されている。しかし、三鈷 (2008) の「養育スキル尺度」では幼児の保護者、伊藤ら (2014) の「肯定的・否定的養育行動尺度」では小中学生の保護者が対象となっており、幼児と小



表7 小学校中学年の保護者対象の学習ユニットのねらい

学習ユニット	ねらい
A6 生活リズム 「早寝早起き朝ご飯」	・子どもの立てた就寝・起床時刻、朝食の目標を知り、家庭で協力できることを考える。
B4 他者理解 「しっかり聞こう」	・相手の話の内容を理解するための正しい聞き方（姿勢、視線、態度）を知り、家庭での指導に生かせるようにする。
B(b) 子どもの理解と受容	・子どもの言動をよく見たり、気持ちの変化に気づいている保護者の例を聞き、その大切さに気づく。 ・保護者の互いの工夫やその成果を交流し、自分の子育ての良い点や頑張りに気づくとともに、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす。
C3 感情伝達 「じょうずだね」	・承認や賞賛の伝え方のポイントを知り、それらを使って家族間で励ましたりほめたりできるようにする。
C5 意思伝達 「断る方法いろいろ」	・断り方には、攻撃的、非主張的、主張的の3通りがあることを知り、主張的に断るための「断り方のポイント」を家庭で指導できるようにする。
C(b) 励ましや感謝の伝達	・子どもの頑張りや良さに注目し、賞賛したり感謝を伝えることの大切さを知って、家庭で実行できるようにする。
D3 自己制御 「こころの信号機」	・怒りを感じたときに、適切に行動するための「こころの信号機」モデルを知り、子どもと保護者の両方が使えるようにする。
D4 協力関係 「みんなで力を合わせて」	・意見が違っても怒ったり途中で投げ出したりしないで、互いに協力していこうとする話し合いの方法を体験し、家庭で使う意欲を高める。
E2 ストレス対処 「イライラよ、さようなら」	・イライラが生起する場面で、保護者自身と子どもの言動の特徴に気づく。そして、イライラを解消する方法があることを知り、家庭内で活用できるようにする。
F(b) 物品・金銭管理	・持ち物や金銭について、子どもがやってよいことと、やっていけないことを指導する。
G(b) 転校	・[個人面接]転校に際しての具体的な手続きを知り、子どもが不安にならないように家庭で支援する。
H4 家庭でのボランティア 「わたしの役割」	・家族としての役割分担を持たせるために、子どもが選んだ仕事について、一定期間の取組ができるように家庭で指導する。

(注) A6, B4 等の表記は、小学生用の SEL-8S の該当する学習ユニットを表す。なお、B(b)のようにカッコ内に小文字アルファベットがあるものは、保護者用にのみ SEL-8P で設定したものである。

中学生を同時に対象とした尺度ではなかった。

## 7. まとめと今後に向けて

本研究では、子ども対象の SEL プログラムの内容から検討するといういわばトップダウン的なアプローチと、教育実践の場における保護者への有効な関わり方から迫るというボトムアップ的なアプローチ、そして両者の中間に位置する、現在提案されているプログラムからの検討という3つの方面からのアプローチを用いて、SEL-8Pの内容構成を提案した。

次の段階は、実際にプログラム内容と研修・実施マニュアルを作成し、実践するとともに、適切な指標を用いてその効果を確認することである。その際、ここで提案した構成案の中から、どのよ

うな状況（子ども対象の SEL-8S や SEL-8N の実施の有無を含む）で、どのユニットをどの程度実施することによって保護者の家庭教育力を高めることにつながるのかを検証する必要があるであろう。

## 引用文献

- Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning. (2012). *2013 CASEL guide: Effective social and emotional learning programs, preschool and elementary school edition*. Chicago, IL: Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning.
- Elias, M. J., Zins, J. E., Weissberg, R. P., Frey, K., Greenberg, M. T., Haynes, N. M., Kessler, R.,

表8 小学校高学年の保護者対象の学習ユニットのねらい

学習ユニット	ねらい
A8 あいさつ 「こんにちは」	・「あいさつのポイント」を知り、そのポイントを押さえて家庭で指導できるようにする。
B6 他者の感情理解 「相手はどんな気持ち？」	・「相手の気持ちを知るヒント」を知り、それらを家庭内で使えるようにする。
B(c) 子どもの理解と受容	・子どもの言動をよく見たり、気持ちの変化に気づいている保護者の例を聞き、その大切さに気づく。 ・保護者の互いの工夫やその成果を交流し、自分の子育ての良い点や頑張りに気づくとともに、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす
C6 意思伝達 「わたしはしない」	・断り方には、攻撃的、非主張的、主張的の3通りがあることを知り、主張的に断るための「断り方のポイント」を家庭で指導できるようにする。
C(c) 励ましや感謝の伝達	・子どもの頑張りや良さに注目し、賞賛したり感謝を伝えることの大切さを知って、家庭で実行できるようにする。
D5 問題解決 「トラブルの解決」	・「トラブル解決のポイント」を知り、家庭で活用できるようにする。
E4 ストレス対処 「リラックスして」	・ストレス対処法のリラクゼーション法を体験し、家庭でも活用できるようにする。
F6 万引き防止 「それはしない！」	・万引き防止に関する子どもの学びと決意を知り、初発型非行に陥らないように家庭での指導に生かす。
F9 携帯電話 「マナーを守ろう」	・通信機器やSNSの現状について知り、その使用について、子どもを含めて家庭で話し合い、ルールを決めることができるようにする。
G6 卒業・進学 「いよいよ中学生」	・子どもが立てた中学校生活の目標を知り、家庭で支援できるようにする。 ・中学校生活の特徴や具体的な準備について知る。
G(c) 転校	・[個人面接]転校に際しての具体的な手続きを知り、子どもが不安にならないように家庭で支援する。
H6 身の回りや地域でのボランティア 「いろいろあるよ」	・子どもと一緒にできる活動があれば、子どもに参加を促す。 ・保護者がモデルとなっていることに気づく。

(注) A8, B6 等の表記は、小学生用の SEL-8S の該当する学習ユニットを表す。なお、B(c) のようにカッコ内に小文字アルファベットがあるものは、保護者用にのみ SEL-8P で設定したものである。

Schwab-Stone, M. E., & Shriver, T. P. (1997). *Promoting social and emotional learning: Guidelines for educators*. Alexandria, VA: Association for Supervision and Curriculum Development. (小泉令三 (編訳) (1999). 社会性と感情の教育—教育者のためのガイドライン 39—北大路書房)

藤田尋子・小泉令三 (2016) 家庭教育支援における保護者向け学習プログラムの分析 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報, 6, 39-46

広島県教育委員会 (2002) 広島県における家庭教育力を充実するための方策について, 広島県生涯学習審議会答申 <<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/08lifelong-kateikyoku-tousinzentai.html>>

伊藤大幸・中島俊思・望月直人・高柳伸哉・田中善大・松本かおり・大嶽さと子・原田新・野田航・辻井正次 (2014) 肯定的・否定的養育行動

尺度の開発—因子構造および構成概念妥当性の検証— 発達心理学研究, 25, 221-231.

家庭教育支援チームの在り方に関する検討委員会 (2014) 「家庭教育支援チームの在り方に関する検討委員会」における審議の整理

小泉令三 (2011) 子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S 1—社会性と情動の学習 <SEL-8S> の導入と実践— ミネルヴァ書房

小泉令三 (2016) 社会性と情動の学習 (SEL) の実施と持続に向けて—アンカーポイント植え込み法の適用— 教育心理学年報, 55, 203-217.

Koizumi, R., (2017). Implementation of social-emotional learning programs in Japanese schools: school teachers' perception of anchor points in educational practice. In C. Pracana & M. Wang (Eds.), *Psychology Applications & Developments III* (pp. 222-232). Lisboa,

表9 中学校の保護者対象の学習ユニットのねらい

学習ユニット	ねらい
A2 規範遵守 「私たちの生徒規則」	・規則についての子どもの理解のようすを知り、家庭内でのルール作りの参考にする。
A3 時間管理 「時間を大切に」	・家庭での時間の使い方（勉強、手伝い、インターネット、ゲームなど）の指導について理解し、実施できるようにする。
B1 他者理解 「“聞く”と“聴く”」	・聞き方の種類について理解し、家族間でも傾聴の習慣が身に着くようにする。
B2 自己理解 「短所を乗り越える」	・子どもの自分自身の長所と短所についての理解を知る。 ・保護者の子育てに関する自己理解を深める。
B(a) 子どもの理解と受容	・異性への関心などについて、子どもの言動をよく見たり、気持ちの変化に気づいている保護者の例を聞き、接し方を考える。 ・保護者の互いの工夫やその成果を交流し、自分の子育ての良い点や頑張り気づくとともに、改善すべき点を今後の家庭教育に生かす
C1 意思伝達 「分かりやすく伝えよう」	・「伝え方のポイント」を知り、家庭で子どもの頑張りや良さに注目して、賞賛したり感謝を伝えることができるようにする。
C4 感情伝達 「冷静に伝える」	・怒りを冷静に伝えるための「こころの信号機」モデルを理解する。 ・「I（私）メッセージ」を家庭でも使えるようにする。
D2 問題解決 「友達が怒っちゃった!？」	・「トラブル解決のポイント」を知り、家庭で活用できるようにする。
D3 携帯電話 「顔の見えないコミュニケーション」	・通信機器や SNS の現状について知り、その使用について、子どもを含めて家庭で話し合い、ルールを決めることができるようにする。
E1 ストレス認知&対処 「ストレスマネジメントⅠ」	・ストレスの種類について理解し、自分に適したストレス対処を家庭で実施できるようにする。
E3 サポート希求 「ストレスマネジメントⅢ」	・適切な相談機関等について情報を得て、実際に利用できるようにする。
F1 万引き防止 「ダメ!万引き!」	・犯罪・違法行為防止に関する子どもの学びと決意を知り、初発型非行に陥らないように家庭で指導する。
F3 精神衛生 「ポジティブに考えよう!」	・「うつ」の症状やその原因について学び、家族の体調や気分の変化に気づいて、適切に対処する方法を学ぶ。
G1 自己理解 「“私”のいいところ」	・子どもの自己理解の実態について知り、家庭でも自己理解が進むように支援する。
G2 進路選択 「私の“夢”」	・子どもの将来への思いを理解し、具体化に向けての親子の交流ができるようにする。
G(a) 転校	・[個人面接]転校に際しての具体的な手続きを知り、子どもが不安にならないように家庭で支援する。
H1 学校でのボランティア 「学校でのミニボラ?」	・子どもが選んだ役割について、満足できる取組ができるように家庭で指導する。 ・家庭でのミニボラについてもともに考え、実行に移せるようにする。
H2 地域でのボランティア 「地域でのボランティア」	・地域行事や近所の清掃活動などへの子どもの思いを知り、保護者がモデルとなれるようにする。

(注) A2, B1 等の表記は、中学生用の SEL-8S の該当する学習ユニットを表す。なお、B(a)のようにカッコ内に小文字アルファベットがあるものは、保護者用にのみ SEL-8P で設定したものである。



- Portugal: InScience Press.
- 文部科学省 (2005) 平成 17 年版文部科学白書  
<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpba200501/](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpba200501/)>
- 文部科学省 (2011) 子どもたちの未来をはぐくむ  
家庭教育
- 文部科学省 家庭教育支援の推進方策に関する検  
討委員会 (2017) 家庭教育支援の具体的な推進  
方策について
- 三鈷泰代 (2008) 幼児期の子どもをもつ親の養育  
スキルに関する研究—親の養育スキルと子ども  
の行動傾向との関連— 発達研究 (発達科学研  
究教育センター), 22, 181-190.
- 三鈷泰代 (2009) 幼児期の子どもをもつ親の養育  
スキルに関する研究—親の養育スキルと子ども  
の行動傾向との関連— 発達研究 (発達科学研  
究教育センター), 23, 57-72.
- 総務省「本日の市町村数」<<http://www.soumu.go.jp/kouiki/kouiki.html>> 2017 年 8 月 13 日  
アクセス
- 田中勇作 (2004) 家庭の教育力と子どもの総合学  
力との関係 総合教育力の向上が子どもの学力  
を伸ばす (ベネッセ教育総合研究所), 90-99.
- 立元真・佐藤容子・坂田和子・岡安孝弘・佐藤正  
二 (2001) 幼児の母親の養育スキルに関する研  
究 (1) —養育スキル尺度の作成— 日本教育  
心理学会総会発表論文集, 43, 519.
- 渡邊賢二・平石賢二 (2011) 中学生が認知する母  
親の養育スキルと母子相互信頼感, 心理的適応  
との関連 日本青年心理学会大会発表論文集,  
19, 54-55.
- 山田洋平・小泉令三 (2014) 幼児のための社会性  
と情動の学習プログラム (SEL-8N) の試案構  
成 福岡教育大学紀要, 63(4), 139-147.

